

医学教育分野別評価

神戸大学医学部医学科

年次報告書

2022年度

評価受審年度 2018年度

2022年8月

神戸大学医学部医学科

1. 使命と学修成果	1.4 使命と成果策定への参画
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
今後、使命と学修成果を見直す際には、教員だけでなく、職員や学生代表も議論に参加し、意見を反映させるべきである。	
改善状況	
教員に加えて、学生、他部局教員、外部委員、学務課職員が参加し、学修成果の見直しを定期的に行なった。	
今後の計画	
引き続き、本学の教員に加えて、学生、他部局教員、外部委員、学務課職員が参加し、使命と学修成果の見直しを定期的に行なっていく。	
改善状況を示す根拠資料	
1.4-1 令和3年度 教育研究・IR委員会議事要旨（11月2日）	
1.4-2 令和3年度 カリキュラム策定運用委員会議事要旨（11月24日）	

1. 使命と学修成果	1.4 使命と成果策定への参画
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
使命と学修成果の策定には、より広い範囲の教育の関係者が参加することが望まれる。	
改善状況	
<p>関西圏の医学教育の専門家からなる医学教育改革諮問委員会を開催し、本学の使命と学習成果を紹介し、意見交換を行った。この委員会での提言により、本学の臨床実習の見直しを開始した。また、医療制度の利用者（模擬患者団体岡山 SP の会代表者）をカリキュラム策定運用委員会に加えた。</p>	
今後の計画	
<p>医療制度の利用者をメンバーに加えたカリキュラム策定運用委員会で、使命と学修成果の策定を定期的に行なっていく。</p>	
改善状況を示す根拠資料	
<p>1.4-3 令和3年度 医学部医学科教育改革諮問委員会議事要旨（7月26日）</p> <p>1.4-4 教授会資料（3月16日・令和4年度研究科各種委員会名簿）</p>	

2. 教育プログラム	2.1 プログラムの構成
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
アクティブラーニングをより充実すべきである。	
改善状況	
令和3年度2年次前期に、「コミュニケーション学」を導入した。令和4年度以降に、医療倫理学、医療法学のカリキュラムを策定し新たにアクティブラーニングを取り入れるプログラム案を策定した。	
今後の計画	
令和4年度以降に、医療倫理学、医療法学のカリキュラムとしてアクティブラーニングを取り入れるプログラムを開始する。	
改善状況を示す根拠資料	
2.1-1 令和3年度 シラバス（コミュニケーション学）	
2.1-2 令和3年度 シラバス（全人医学）	
2.1-3 臨床実習改革ワーキング議事要旨（9月21日）	

2. 教育プログラム	2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
行動科学においては、体系的な教育プログラムを構築し、実践すべきである。	
改善状況	
授業科目「行動科学」を2年次後期に開講した。	
今後の計画	
授業科目「行動科学」の内容の改善を図っていく。	
改善状況を示す根拠資料	
2.4-1 令和3年度 シラバス（行動科学）	

2. 教育プログラム	2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
時代に対応して体系的に行動科学、社会医学、医療倫理学、医療法学のカリキュラムを調整していくことが望まれる。	
改善状況	
令和3年度に、医療倫理学・社会医学・医療法学のワーキンググループを設置し、時代に対応した体系的なカリキュラムを策定した。	
今後の計画	
令和4年度以降に、策定した医療倫理学・社会医学・医療法学の体系的なカリキュラムを開講していく。	
改善状況を示す根拠資料	
2.1-3 臨床実習改革ワーキング議事要旨（9月21日）	

2. 教育プログラム	2.5 臨床医学と技能
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
<p>重要な診療科における十分な実習期間を確保すべきである。</p> <p>学生が経験すべき症例と臨床技能を明確にし、すべての学生が修得できるような臨床実習カリキュラムを定め実践すべきである。</p>	
改善状況	
臨床実習改革ワーキングを設置し、臨床実習カリキュラムの見直しを行った。	
今後の計画	
<p>現在のBSL・関連病院実習・個別計画実習を臨床実習1・臨床実習2・臨床実習3に移行し、令和3年度から臨床実習1を導入し、令和4年度から順次臨床実習2・臨床実習3を導入する予定とした。</p>	
改善状況を示す根拠資料	
2.1-3 臨床実習改革ワーキング議事要旨（9月21日）	

2. 教育プログラム	2.6 プログラムの構造、構成と教育期間
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
<p>基礎医学および臨床医学教育における水平的統合を、より推進することが望まれる。 基礎医学、行動科学および社会医学と臨床医学の垂直的（連続的）統合を推進することが望まれる。</p>	
改善状況	
<p>「ニューロサイエンス」の開講に向けて、関係教員により関連科目の統合の議論を進めている。</p>	
今後の計画	
<p>引き続き「ニューロサイエンス」の開講、基礎医学、行動科学および社会医学と臨床医学の垂直的（連続的）統合を推進するための議論を進める。</p>	
改善状況を示す根拠資料	

3. 学生の評価	3.1 評価方法
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
<p>知識、技能および態度を含む評価を確実に実施すべきである。</p> <p>学生の学修を促進するために、試験の適正な回数と内容を検証すべきである。</p> <p>評価が担当教員以外の外部の専門家によって吟味される仕組みを構築すべきである。</p>	
改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・マイルストーン（案）を作成し、知識・技能・態度の評価との対応表を作成した。 ・BSL 後の科目別試験については廃止とし、実習中の達成度で評価することとし、学生の負担を軽減した。 	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・マイルストーン（案）を整理し、利用しやすいものに簡略化していく。 ・学生の学修を促進するために、引き続き試験の適正な回数と内容を検証していく。 ・各科目の評価法が担当教員以外の外部の専門家によって吟味される仕組みを構築していく。 	
改善状況を示す根拠資料	
<p>3.1-1 医学部医学科マイルストーン概要</p> <p>3.1-2 マイルストーン案</p>	

3. 学生の評価	3.1 評価方法
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
評価方法の信頼性と妥当性を検証し、明示することが望まれる。	
改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・秀・優・良・可の割合の適正化を図り、秀の割合が10%程度、秀+優の割合が40%程度になるように各分野に指導を行い、医学科会議で各科目の秀・優・良・可の割合について報告事項とし周知している。 ・卒業試験については、平成30年度から正解を開示し、学生の疑義申し立て期間を設けて、評価方法の信頼性の改善を図り、妥当性については、CBT・卒業試験・国家試験成績（自己採点）の3者の比較を継続した。 ・令和3年度に、OSCEの専門家によるFDを行い、教員がOSCE評価に理解を深める機会とした。 ・授業振り返り（授業コーディネータ）を提出するよう義務付けた。 	
今後の計画	
教員各自が授業振り返り（授業コーディネータ）により、学修評価の方法を再点検し、より妥当性や信頼性の優れた評価ができるよう促進していく。教育研究IR委員会にて、各科目の学修評価方法を集計し、分析する仕組みを作る。	
改善状況を示す根拠資料	
<ul style="list-style-type: none"> 3.1-3 成績評価に係る周知（12月医学科会議） 3.1-4 令和3年度 OSCE 専門家によるFD 3.1-5 令和3年度 OSCE 専門家によるFD（第8回神戸大学医学部教授による医学教育ワークショップ） 3.1-6 教員による振り返り（コーディネーター：2021前期） 3.1-7 教員による振り返り（コーディネーター：2021後期） 	

3. 学生の評価	3.2 評価と学習との関連
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
<p>目標とする学修成果を学生が達成していることを組織的に評価する仕組みを作るべきである。</p> <p>目標とする学修成果を全学生が達成するために形成的評価を活用すべきである。</p>	
改善状況	
<p>・評価のためのマイルストーンとロードマップ(案)を作成した。評価法と組み合わせ、組織的に評価する仕組みを作ることとした。</p>	
今後の計画	
<p>・マイルストーンとロードマップ(案)をもとに利便性の良いマイルストーンとロードマップを作成していく。</p> <p>・目標とする学修成果を全学生が達成するために、形成的評価の機会を全学年にわたって増やしていく。</p>	
改善状況を示す根拠資料	
<p>3.1-1 医学部医学科マイルストーン概要</p> <p>3.1-2 マイルストーン案</p>	

3. 学生の評価	3.2 評価と学習との関連
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
<p>カリキュラム単位ごとに評価結果に基づいたフィードバックを行い、学修成果の達成に向かって学修意欲を促進することが望まれる。</p> <p>臨床実習において、mini-CEX、360度評価、ポートフォリオなどを利用したパフォーマンス評価を充実し、臨床実習期間全体を通して適切なフィードバックを行う体制を構築することが望まれる。</p>	
改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度より、学修支援システム（うりぼーネット）が全学年に対応し、前期・後期に学修の記録（ポートフォリオ）を学生が記載できるようになった。 	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム単位ごとに評価結果に基づいたフィードバックを行い、学修成果の達成に向かって学修意欲を促進する方法として、各学年の学修の記録（ポートフォリオ）を活用するとともに、臨床実習において、mini-CEX、ポートフォリオの導入を検討していく。学修の記録については、教員によるフィードバックの仕組みを構築していく。 	
改善状況を示す根拠資料	
3.2-1 「学修の記録」について 2021年度前期・後期	

4. 学生	4.3 学生のカウンセリングと支援
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
学修上の問題に対するカウンセリング制度とその体制を充実すべきである。 社会的、経済的、および個人的事情に対応した学生支援プログラムを充実すべきである。	
改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・1年次2年次にあらたに、チューター制度を導入し、年2回のカウンセリングを行う制度を創設した。 ・令和2年度に創設した、社会的、経済的、および個人的事情に対応する悩み相談窓口を継続し、教員・職員が学生の質問に答えたり、学生の個人的事項に対応している。コロナ禍で経済的に困窮している学生の支援のために、特別奨学金を令和3年度に2度の募集・支給を行った。 	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・令和元、2、3年度に創設したカウンセリング制度の体制の維持・充実を図っていく。 ・令和4年度も、コロナ禍で経済的に困窮している学生の支援のために、特別奨学金を継続する。 	
改善状況を示す根拠資料	
<ul style="list-style-type: none"> 4.3-1 チューター制度について 4.3-2 緊急学生支援奨学金（6月） 4.3-3 緊急学生支援奨学金（12月） 	

4. 学生	4.3 学生のカウンセリングと支援
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
全学生に対して、評価結果に基づいた経時的な学修上のカウンセリングを実施することが望まれる。	
改善状況	
・1年次2年次学生全員に、教員チューター制度を導入し、年2回のカウンセリングを行う制度を創設した。	
今後の計画	
・年次進行により、全学生に対して、教員チューター制度を整備し、評価結果に基づいた経時的な学修上のカウンセリングを実施できるよう、体制を整えていく。	
改善状況を示す根拠資料	
4.3-1 チューター制度について	

5. 教員	5.2 教員の活動と能力開発
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
教員に対する教育能力開発をより充実させ、全教員の教育への理解を推進すべきである。	
改善状況	
全教員を対象とした e-learning によるオンデマンド授業の方法についての FD を実施した。全教員を対象とした医学教育における Post-CC-OSCE の役割についての FD を実施した。	
今後の計画	
引き続き、全教員に対する FD を計画、実施していく。	
改善状況を示す根拠資料	
5.2-1 令和3年度 新任教員の医学教育 FD (e-learning)	

6. 教育資源	6.1 施設・設備
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
学生用の自習スペースは不足しており、自習スペースを整備すべきである。	
改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・各講義室を自習スペースとして夜間開放した。 ・福利厚生施設の建て替えを開始した。 ・図書館について、コロナ禍の影響で大学全体の方針として、開館時間を制限しているが、感染対策を徹底することにより延長を計画している。 	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・福利厚生施設の建て替えに伴い、自習スペースの確保を計画している。 	
改善状況を示す根拠資料	
<p>6.1-1 教室使用時間延長依頼</p> <p>6.1-2 福利厚生施設について（2021年8月「楠だより」）</p> <p>6.1-3 福利課外施設の活用について（案）</p>	

6. 教育資源	6.2 臨床トレーニングの資源
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
学内外の指導医に対するFDをさらに推進し、指導力の養成を図るべきである。	
改善状況	
関連病院の指導医FDを年2回実施し、より多くの参加のため、ライブ開催のほかWeb配信を行った。	
今後の計画	
関連病院実習と個別計画実習を臨床実習2・臨床実習3に改変するのに伴い、実習説明会を複数回開催して実習内容の周知を図る。	
改善状況を示す根拠資料	
6.2-1	令和3年度 関連病院実習指導者FD資料
6.2-2	令和3年度 関連病院実習指導者FD案内

6. 教育資源	6.3 情報通信技術
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
「神戸大学 BEEF」の活用の促進、およびインターネット環境のさらなる改善が望まれる。学生が正規の電子カルテに記載できることが望まれる。	
改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎棟（低学年用の講義室あり）で、Wi-Fi が通じにくい場所において、Wi-Fi 機器の増設を行った。 ・ 学生の正規電子カルテ記入に関する検討を開始した。 ・ 各講義室にハイフレックス授業が可能な DX 機器を配備した。 	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生の正規電子カルテ記入に関する整備を行っていく。 ・ DX 化を用いた授業の充実に努める。 	
改善状況を示す根拠資料	
<ul style="list-style-type: none"> 6.3-1 楠地区ネットワークのユビキタス化について 6.3-2 臨床実習における電子カルテの取扱いについて 6.3-3 デジタルを活用した大学・高等教育の高度化 	

7. プログラム評価	7.1 プログラムのモニタと評価
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
学生の学修成果をカリキュラムとその主な構成要素、学生の進歩の視点から、データを収集し、現行のカリキュラムの課題を特定し対応すべきである。	
改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・学生の授業振り返り・実習アンケートと授業コーディネータ教員による授業振り返りを実施し、両者を教育研究 IR 委員会に集約し、カリキュラム策定運用委員会が教育研究 IR 委員会の報告をもとに、カリキュラムの改善を行った。 ・学修委員が教育研究 IR 委員会やカリキュラム策定運用委員会に参加し、現行のカリキュラムの課題等について意見交換を行い、改善を図った。 	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・学生の授業振り返り・実習アンケートと授業コーディネータ教員による授業振り返りの実施から、教育研究 IR 委員会での分析、カリキュラム策定運用委員会での改善実施という教育の PDCA サイクルを回していく。 	
改善状況を示す根拠資料	
<ul style="list-style-type: none"> 1.4-1 令和3年度 教育研究 IR 委員会議事要旨（11月2日） 1.4-2 令和3年度 カリキュラム策定運用委員会議事要旨（11月24日） 7.1-1 令和3年度前期 教員による振り返りについて 7.1-2 令和3年度後期 教員による振り返りについて 7.2-1 医学部医学科 教育研究・IR 委員会について 	

7. プログラム評価	7.1 プログラムのモニタと評価
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
教育活動とそれが置かれた状況、カリキュラムの特定の構成要素、長期間で獲得される学修成果、社会的責任の視点で定期的にプログラムを包括的に評価することが望まれる。	
改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・大学院入学者・教員入職者へのアンケートに加え、令和3年度は卒業生の初期研修先への達成度アンケートを行い、卒業生80名分の回答を得た。 ・マイルストーンとその評価法を含むロードマップを作成した。 	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・教育研究IR委員会にて、大学院入学者・教員入職者へのアンケート、卒業生の初期研修先への達成度アンケートを分析する。長期間で獲得される学修成果、社会的責任の視点で包括的に評価していく。 ・令和3年度に作成したマイルストーンとその評価法を含むロードマップの利便性を考慮して改変し、評価に用いていく。 	
改善状況を示す根拠資料	
<ul style="list-style-type: none"> 7.1-3 令和3年度 大学院入学者アンケート（神戸大学出身者のみ） 7.1-4 令和3年度 医学部教育に関するアンケート（新任教員） 3.1-1 医学部医学科マイルストーン概要 3.1-2 マイルストーン案 	

7. プログラム評価	7.2 教員と学生からのフィードバック
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
<p>学生からのフィードバックは、主に授業評価にとどまっており、卒業試験アンケートもカリキュラムアンケートになっていない、1年次から6年次に至るプログラム構成（目標、方略、評価を含む）について、その改善に資するような情報をフィードバックとして受けるべきである。</p> <p>教員からのフィードバックを系統的に求め、分析し、対応すべきである。</p>	
改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・学修委員がカリキュラム策定運用委員会、教育研究・IR委員会に参加し、事前に学生から提出のあった各学年のカリキュラムへの意見をもとに、現行のカリキュラムの課題等について意見交換を行い、改善を図った。 ・担当科目が終了するごとに、授業コーディネータによる授業振り返りを本格運用を開始し、教育研究IR委員会に結果を集約・分析した。 	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・教育研究・IR委員会を活用して、1年次から6年次に至るプログラム構成（目標、方略、評価を含む）について、教員からのフィードバックを含め、その改善に資するような情報を受け、教員からのフィードバックを系統的に求め、分析し、対応していく。 	
改善状況を示す根拠資料	
<p>1.4-1 令和3年度 教育研究IR委員会議事要旨（11月2日）</p> <p>1.4-2 令和3年度 カリキュラム策定運用委員会議事要旨（11月24日）</p>	

7. プログラム評価	7.2 教員と学生からのフィードバック
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
フィードバックを受けてプログラムを開発する仕組みはあるが、フィードバックが十分ではなく、プログラム改善に至っていない。学生、教員、社会から、それぞれのニーズを把握し、分析、評価して、プログラム開発につなげることが望まれる。	
改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・学生の授業振り返りアンケート、教員の振り返りを集積し、教育研究 IR 委員会で学生も交えて討論し、カリキュラム策定運用員会に提言し、カリキュラム策定運用委員会で改善策を策定する流れを構築した。 ・教育研究・IR 委員会での分析結果を関係病院長会議で報告した。 	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・教育研究・IR 委員会がアンケート集計結果と分析結果を、カリキュラム策定運用委員会等の教学系委員会や教授会のほか、関連病院の指導医 FD など報告を行い、外部、社会からのフィードバック体制を整える。 ・医学教育改革諮問委員会を開催して、広く助言を求めてプログラム開発につなげていく。 	
改善状況を示す根拠資料	
7.2-1 医学部医学科 教育研究・IR 委員会について	
1.4-3 令和3年度 医学部医学科教育改革諮問委員会議事要旨（7月26日）	

7. プログラム評価	7.3 学生と卒業生の実績
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
<p>学生ならびに卒業生の実績に関する情報を系統的に収集・分析し、使命と期待される学修成果に沿った人材が育成されているかを検討し、プログラムの改善に利用すべきである。</p>	
改善状況	
<p>初期研修先病院からの評価、卒業生の大学院入学時のアンケート、卒業生の教員入職時のアンケートを系統的に集める仕組みを構築した。</p>	
今後の計画	
<p>系統的に集めた、初期研修先病院からの評価、卒業生の大学院入学時のアンケート、卒業生の教員入職時のアンケートを収集・分析し、使命と期待される学修成果に沿った人材が育成されているかを検討し、プログラムの改善に利用してゆく。</p>	
改善状況を示す根拠資料	
<p>7.1-3 令和3年度 大学院入学者アンケート（神戸大学出身者のみ） 7.1-4 令和3年度 医学部教育に関するアンケート（新任教員） 7.3-1 令和3年度 就職先機関インタビュー</p>	

7. プログラム評価	7.3 学生と卒業生の実績
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
<p>学生と卒業生の背景と状況に関する実績を分析することが望まれる。</p> <p>学生の実績を分析し、その解析結果を学生選抜、カリキュラム立案や学生支援に関わる委員会にフィードバックすることが望まれる。</p>	
改善状況	
<p>入学者 PROG テストにて、学生の背景と状況に関する実績を分析し、教育研究・IR 委員会に報告した。</p>	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・学生の背景と状況に関する実績を分析とともに、将来的には卒業生についても、分析していく。 ・教育研究・IR 委員会が収集、分析したデータをカリキュラム策定運用委員会、教務学生委員会及び入学システム検討委員会にフィードバックし、学生選抜、カリキュラムや学生支援の改善を図っていく。 	
改善状況を示す根拠資料	
7.3-2 PROG・アンケート分析報告書	

7. プログラム評価	7.4 教育の関係者の関与
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
他の関連する教育の関係者に、課程ならびにプログラムの評価結果を基に、フィードバックを求めることが望まれる。	
改善状況	
医学教育改革諮問委員会を開催し、カリキュラムについて他大学教育関係者や関連病院の教育担当者を含む外部委員の評価を受けた。	
今後の計画	
今後も定期的に、医学教育改革諮問委員会を開催して、カリキュラムについて他大学教育関係者や関連病院の教育担当者を含む外部委員の評価を受けてカリキュラム改善をはかっていく。	
改善状況を示す根拠資料	
1.4-3 令和3年度 医学部医学科教育改革諮問委員会議事要旨（7月26日）	

8. 統括および管理運営	8.4 事務と運営
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
教育の改革を推進するために、教学に関わる事務を含めた組織の支援体制を強化すべきである。	
改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・より効率的に教育改革を進めるため、医学教育推進センター（仮称）の設置に向けてワーキンググループを発足した。 ・学務課内の教務担当係のグループ化を行い、職員を増員した。 	
今後の計画	
医学教育推進センター（仮称）の開設の手続きを開始する。	
改善状況を示す根拠資料	
8.4-1 医学教育改革ワーキング議事要旨（11月19日）	

9. 継続的改良	
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
教育研究・IR委員会、カリキュラム評価委員会、医学教育改革諮問委員会等の活動の充実を図り、継続的な改良を進めるべきである。	
改善状況	
教育研究・IR委員会とカリキュラム評価委員会を統合して、効率的なカリキュラムの評価体制を構築した。	
今後の計画	
改組した教育研究・IR委員会を活用し、また、医学教育改革諮問委員会の充実をはかりながら、カリキュラムの継続的な改良を進めていく。	
改善状況を示す根拠資料	
7.2-1 医学部医学科 教育研究・IR委員会について	